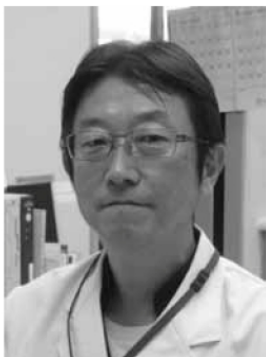


骨粗鬆症外来を新設します



リハビリテーション科部長
整形外科医師

中村 雅彦

山香病院だより vol.65

現在、骨粗鬆症は骨の「病的な老化」で、明らか「病氣」であると考えられています。また、高齢者の骨折の大部分は骨が脆くなることと関係しており、予防と治療が必要です。

地域的にも杵築市は高齢化しており、今回「骨粗鬆症外来」を新設する事となりました。

骨粗鬆症の診断は①X線検査②骨量を測定する検査③血液・尿検査等を必要に応じて組み合わせて行います。当院では骨量の測定を橈骨(とうこつ)手首(骨)で測定しています。測定値が若年成人骨量(20歳代)40歳代前半の平均骨量の70%以下の場合骨粗鬆症と判定し治療を開始します。また、測定値が80%以下を骨粗鬆症の予備軍として骨減少症といい、既存の骨折がある場合などは治療が必要となります。

2002年より国内でも多数の骨粗鬆症の薬が認可され「骨の量」は少しずつ増やせる様になりました。

当院では、骨粗鬆症外来を、毎週木曜日の午後2時から4時まで整形外科外来で行います。健康診断のつもりで、一度「骨の量」を検査することをおすすめします。

皆さん、こんにちは。7月より杵築市立山香病院に勤務しています整形外科の中村です。今回専門外来として骨粗鬆症外来を新設することになり、簡単に説明・紹介させていただきます。

骨粗鬆症とは、骨の量が減少し、骨梁(骨の中の支柱)や骨皮質が弱くなる事により骨が脆くなり、骨折を起こしやすくなった状態のことです。

我が国では、人口の急速な高齢化に伴い骨粗鬆症の患者さんが年々増加しています。2011年度の時点で、その数は1300万人と推測されています。2006年度と比べ、この5年間で約200万人増えた事になります。以前、骨粗鬆症は単なる「骨の老化現象」であり「病氣」ではないという

認識から、積極的に予防も治療も行われてきませんでした。しかし、骨粗鬆症は2007年に日本整形外科学会が概念を確立し、啓発活動を推進している「運動器症候群(ロコモティブ)症候群」の大きな原因となります。

運動器症候群は骨・関節・筋肉といった運動器の機能が衰えた状態を指しており、運動器の機能障害により日常生活で様々な「暮らしにくさ」を実感し、生活の質の低下を招いてしまいます。また、2007年の国民生活基礎調査において、高齢者の「寝たきり」の原因の21.5%は関節疾患と転倒・骨折を合わせた運動器疾患(第2位)であり、第1位の脳血管疾患の23.3%と大きな差があります。